

日本気象学会第27期役員選挙告示

現在の役員は、平成4年7月で2年の任期が満了となりますので、定款に従い、次の要領で次期役員を選挙を行います。

1. 選出する役員

理事 27名

監事 2名

2. 立候補および候補者推薦の届出

イ. 候補者の資格

平成4年4月1日現在の通常会員

ロ. 届出方法

立候補する者および候補者を推薦する者は、次の書類を付し、選挙管理委員会に届ける（郵送でもよい）。

i) 候補者氏名、生年月日、所属機関、種類別（理事、監事の別）。

ii) 候補者を推薦する場合は候補者の承諾書。

iii) 候補者の略歴・所信、400字以内にまとめること、とくに、気象学会が当面していると思われる重要問題について具体的な考え方を含めること。届出期間中に委員会に到着しない時は所信なしと扱います。

ハ. 届出締切

平成4年4月1日以降平成4年4月16日までに選挙管理委員会に必着のこと。

ニ. 宛名

〒100 東京都千代田区大手町 1-3-4 気象庁観測部高層課気付 日本気象学会選挙管理委員会

ホ. 候補者の資格審査

選挙管理委員会は、前項に従って届出された立候補者および推薦候補者の資格審査を、平成4年4月17日に行い、公示する。

ヘ. 候補者名簿は受付順とする。

3. 投票

イ. 有権者資格

平成4年4月1日現在の通常会員

ロ. 候補者名簿および投票用紙

候補者名簿・所信表明は「天気」5月号に掲載します。投票用紙は平成4年6月上旬に送付しますが6月15日までに到着しない時は直ちに選挙管理委員会に申し出てください。

ハ. 投票期日

平成4年7月9日までに選挙管理委員会に必着のこと。

ニ. 投票方法

理事、監事別に連記無記名文書投票とする（方法の詳細は投票用紙と共に送ります）。

4. 開票および結果の公示

イ. 開票期日

開票は平成4年7月10日気象庁内で行います。

会員はこの開票に立ち会うことができます。

ロ. 開票結果の公示

開票結果は、当日発表し、かつ、「天気」8月号に公示します。

日本気象学会管理委員会

東京都千代田区大手町 1-3-4 気象庁観測部高層課内

Tel. 03-3212-8341 内線 4191

（委員長） 八木正允

（委員） 青木周司、大友 猛、木本昌秀、
佐藤清富、柴田誠司、羽原健司、
宮本仁美、行本誠史

（アイウエオ順）

定款及び細則（抜粋）

定款第14条

理事および監事は、次に定めるところに従い、通常会員のうちから通常会員の無記名投票によって選挙する。

1. 理事は、細則に定める地区毎の定数を全国の通常会員が選挙する。

2. 監事は通常会員の互選で定める。

定款第19条 役員は、2年とする。ただし、再任を妨げない。役員に欠員を生じたときは、細則で定める次点者をもって補い、補欠役員は前任者の残任期間とする。役員は、その任期満了後でも後任者が就任するまでは、なおその職務を行う。

細則第7条

1. 各地区の理事の定数は、各地区の会員数に応じ、次のとおりとする。ただし、関東地区については、この法人の事務の円滑な運営をはかるための定数を次のとおり加算する。

北海道地区（北海道）……………2名

東北地区（宮城県，岩手県，青森県，秋田県，
山形県，福島県）…………… 2名
関東地区（東京都，神奈川県，千葉県，茨城県，
埼玉県，群馬県，栃木県，新潟県，山
梨県）…………… 8名 加算分 5名
中部地区（富山県，石川県，福井県，長野県，
静岡県，愛知県，岐阜県，三重県）
…………… 2名
関西地区（大阪府，京都府，滋賀県，和歌山県，
奈良県，兵庫県，鳥取県，島根県，岡
山県，広島県，香川県，愛媛県，徳島
県，高知県）…………… 4名
九州地区（山口県，福岡県，佐賀県，長崎県，

大分県，熊本県，宮城県，鹿児島県）
…………… 3名
沖縄地区（沖縄県）…………… 1名
2. 監事は，通常会員の中から2名互選される。
3. 通常会員は，理事および監事に立候補することが
できる。
4. 他の通常会員によって書面により理事および監事
に推薦され，かつそれを承認した通常会員は，推薦
候補となることができる。
5. 理事および監事は，立候補者および推薦者以外の
通常会員からも選挙される。
6. 理事および監事の選挙は，それぞれ種類別に連記
する無記名文書投票とする。

≡≡≡ 支部だより ≡≡≡

関西支部第13回夏季大学報告

大阪管区气象台および大阪市，大阪府，京都府，兵庫
県，奈良県，和歌山県，滋賀県の各教育委員会の後援を
得て，今年の夏季大学は，身近に起こる気象現象に親し
みをもって，地球大気の実態にせまってみようというこ
とをキャチフレーズに，「大気の流れをみる」がテーマ
で7月25日（木），26日（金）にかけて開催しました。

講座内容は，京都大学の岩嶋先生による「地球をとり
まく大気の流れ」，和歌山大学の伊藤先生による「日本
付近の大気の流れ」，京都大学の田中先生による「局地
的な大気の流れ」，大阪管区气象台の熊井主任予報官
による「天気図を読む」で，非常に身近かな大気の流れ
が，実は，地球規模等のより大きな流れに大きく影響を

受けていること，これらは天気図から読取れること等わ
かりやすく講義していただきました。

参加された方は88名で，その受講者層は学校の先生方
が半数近くでしたが，一般学部の学生，農業関係の方等
とバラエティに富んでいました。また，各講座終了後
には，例年になく質問が多く，梅雨について最新の学問的
見地からの説明に対して，ある中学の先生から子供たち
にどのように教えたらいのかという質問が出されたの
が印象的でした。

最後に，開講にあたりまして，後援いただいた各教育
委員会および報道機関等の御協力いただいた方々に対し
ここに深く感謝いたします。